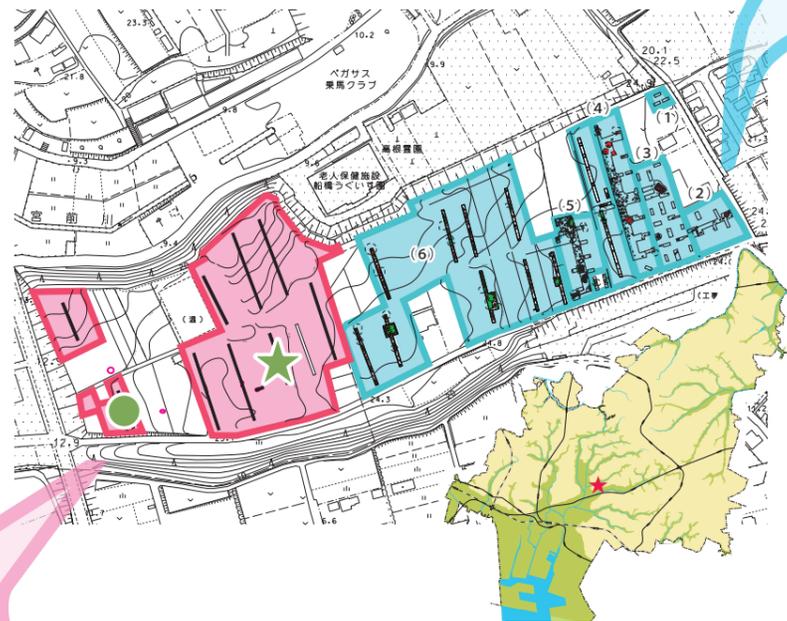


とりかけにしかいづか 船橋市 取掛西貝塚 (7) 遺跡見学会

平成 30 年 8 月 18 日 (土) (雨天の場合 8 月 25 日)

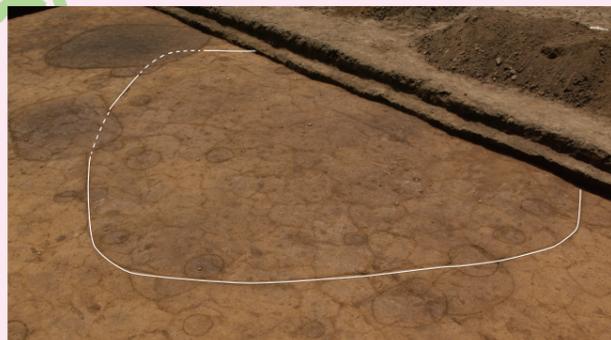
取掛西貝塚は船橋市の中央部、飯山満町から米ヶ崎町の台地上に位置する縄文時代早期(約 1 万年前)と前期(約 6 千年前)の遺跡です。これまでに行われた調査で縄文時代早期の貝層や竪穴住居跡などが見つかり、ヤマトシジミを主体とした貝層は東京湾東岸部で最も古いのです。船橋市では現在、取掛西貝塚の国史跡指定を目指し、遺跡の内容や範囲を確認するための調査を行っています。



今年度の調査成果

取掛西貝塚の今年度の調査は、一昨年度行った分布調査と昨年度行った確認調査の結果を参考にトレンチを設定して調査を行いました。今年度の調査は約半分ほどが終了し、いくつかの発見がありました。

縄文時代早期の集落の広がりを確認



今回の調査では、昨年度よりも西側で早期の住居跡が発見されました。縄文時代早期の集落範囲が、さらに西側に広がっていることがわかりました。

弥生時代の集落を発見



今回の調査では弥生時代中期の集落も発見されました。船橋市では弥生時代の調査事例が少なく、貴重な発見となりました。写真は土坑からまとまって出土した弥生土器です。



これまでの調査成果

取掛西貝塚ではこれまでに、縄文時代早期・前期の集落跡が発見されています。ここでは縄文時代早期を対象とし、特に大きな成果が得られた(5)地点と(6)地点の調査結果についてご紹介します。

頭骨を並べた日本最古級の動物儀礼跡

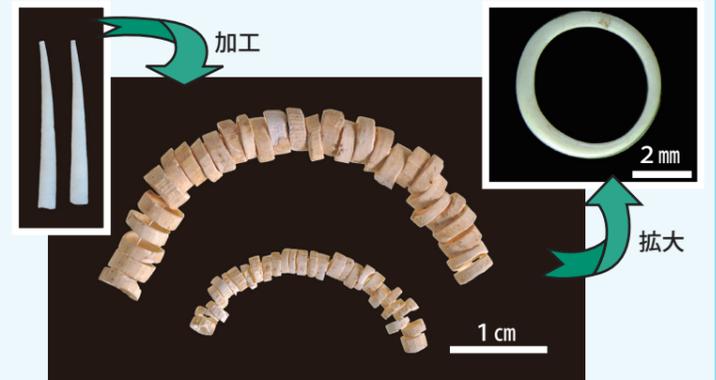


(5)地点の調査では、縄文時代早期の住居跡からヤマトシジミを主体とする貝層が発見されました。ヤマトシジミは汽水域(河口付近の海水と淡水が混じる水域)に生息しており、貝塚が形成された時期の環境を考える上で貴重な資料となります。

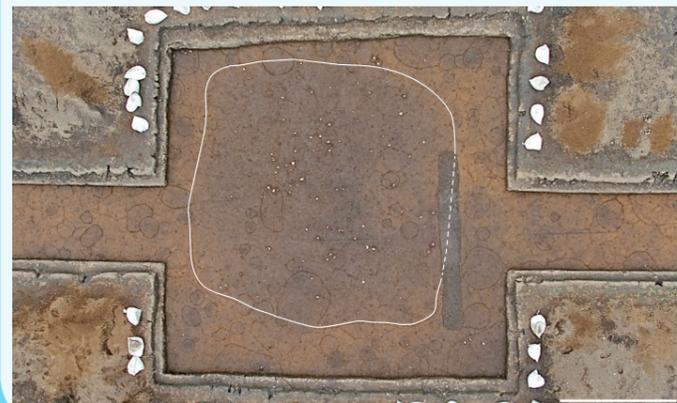
また、この貝層の下からは、イノシシやシカの頭の骨が並べられた状態で出土しました。その出土状況などから動物儀礼跡と考えられており、日本最古級の貴重な事例となります。

豊富な骨角製品【(5)地点】

貝層中からは動物の骨やシカの角、貝などを加工した道具が出土しました。動物の骨を加工した針やサメの歯を加工した飾り、ツノガイをビーズ状に加工した飾りなどが出土し、縄文人の優れた加工技術がうかがえます。



あらたに縄文時代早期の住居跡を発見【(6)地点】



昨年度行った(6)地点の調査によって、縄文時代早期の集落が予想よりも広い範囲に広がっていることがわかりました。白線に囲われた範囲が、縄文時代早期の住居跡です。白線内の小さな白い点は出土した土器や石器です。これらの土器から、これまでの調査で発見されていた住居跡よりもやや古い時期のものであることがわかりました。

遺跡の内容や範囲を探る調査は昨年度・今年度を含めて3年間の予定で実施いたします。今年度の調査は9月まで行う予定です。調査成果は今年度中に実施する遺跡報告会でも詳細を報告予定です。

取掛西貝塚をはじめとした最新の遺跡の情報は文化課 Facebook でも発信しております。

8/16 現在のデータのため変更になる場合もあります。

船橋市教育委員会 生涯学習部 文化課・埋蔵文化財調査事務所 (047-449-7153)

Facebook 用 QR コード

